

第64回 美術史学会全国大会プログラム

5月20日（金）（12：45 受付開始）

研究発表（13：15－16：45、会場：同志社女子大学 新島記念講堂）

13：15－13：55 貿易品としての南インド産絨毯－京都祇園祭と長浜曳山祭の絨毯をめぐって－
鎌田由美子（早稲田大学）

13：55－14：35 大英博物館における「日本美術史」の形成－20世紀初頭の変革を中心として－
彬子女王（立命館大学）

14：35－15：15 朝鮮国王に贈呈された「楊貴妃図屏風」－己酉約条と「金屏風五對」をめぐって－
朴美姫（武蔵野美術大学）

休憩 10分

15：25－16：05 キリシタン美術と対抗宗教改革期のイタリア美術
児嶋由枝（上智大学）

16：05－16：45 あの世の関所と〈最後の審判〉－ルーマニアの事例－
早川美晶（大阪市立大学）

『美術史』論文賞表彰式（17：00－17：20、会場：同志社女子大学 新島記念講堂）

総会（17：20－18：20、会場：同志社女子大学 新島記念講堂）

5月21日（土）（9：30 受付開始）

研究発表（午前）

第一分科会（10：00－12：00、会場：同志社大学 夢告館）

10：00－10：40 ガンダーラ仏教彫刻における生天思想の造形－従三十三天降下図を中心に－
田辺理（早稲田大学）

10：40－11：20 高雄曼荼羅金剛界四印会における大日如來の宝冠化仏について
中村夏葉（名古屋大学）

11：20－12：00 広島県浄土寺所蔵「仏涅槃図」再考
鯨井清隆（早稲田大学）

第二分科会（10：00－12：00、会場：同志社大学 夢告館）

10：00－10：40 〈イーゼンハイム祭壇画〉《キリスト復活》におけるキリストの形態とその意義
大杉千尋（神戸大学）

10：40－11：20 ボッティチェッリ作《柘榴の聖母》を巡る一考察
江尻育世（京都大学）

11：20－12：00 ガストン・フェビュスの『狩獵の書』－アンジュー本の挿絵における伝統と刷新－
高木麻紀子（東京藝術大学）

研究発表（午後）

第一分科会（13：15－16：45、会場：同志社大学 夢告館）

13：15－13：55 東博本「浜松図屏風」を旅の記憶の形象としてよむ
飯田紀久子

13：55－14：35 伝小野通女筆《徳川家康像》について
中村玲（筑波大学）

14：35－15：15 幽汀に見られる応挙画風について
藤井菜都美（学習院大学）

休憩 10分

15：25－16：05 狩野探信守道にみる江戸狩野派の新画風創造の一端
薄田大輔（学習院大学）

16：05－16：45 上方における相撲絵に関する一考察
大久保範子（横浜美術大学）

第二分科会（13：15－16：45、会場：同志社大学 夢告館）

13：15－13：55 塑造家としてのヤコポ・デッラ・クエルチャールネサンス塑造研究再考－
松本悠子（慶應義塾大学）

13：55－14：35 ブファリーニ礼拝堂とカラファ礼拝堂
－1480年代にローマで制作された両装飾壁画の視覚的類縁性をめぐって－
荒木文果（ローマ第一大学）

14：35－15：15 シャルトル大聖堂の《善きサマリア人の譬え話》のステンドグラスに関する一考察
－教会論的・終末論的図像解釈の可能性をめぐって－
小野康子（名古屋大学）

休憩 10分

15：25－16：05 クノップフ作品における夢と現実
－《ヴェラーレンと共に－天使》及び《愛撫》の画中文字の解読より－
矢追愛弓（九州大学）

16：05－16：45 1930年代フランスにおける壁画の復興
山本友紀（京都嵯峨芸術大学）

懇親会（18：30－20：30、会場：ハイアット リージェンシー 京都）

5月22日(日) (9:30 受付開始)

研究発表(午前)

第一分科会(10:00-12:00、会場:同志社大学 夢告館)

- 10:00-10:40 「男衾三郎絵巻」再考-望ましき当主像をめぐる- 岡部恵理子(学習院大学)
- 10:40-11:20 清原雪信の研究-伝記と伝説を中心に- 大平有希野(実践女子大学)
- 11:20-12:00 相合傘図像の源流を探る
-井原西鶴『好色一代男』と菱川師宣『やまとゑの根元』の間- 金志賢(日本大学)

第二分科会(10:00-12:00、会場:同志社大学 夢告館)

- 10:00-10:40 ロベール・カンパンの「聖三位一体(父なる神のピエタ)」
-《サンクトペテルブルクの二連画》を中心に- 鈴木伸子(東京藝術大学)
- 10:40-11:20 ディルク・ファン・パビューレン作《キリストの埋葬》の図像源泉と注文主
深谷訓子(尾道大学)
- 11:20-12:00 ギュスターヴ・モロー作《天界を観想する大神パン》-諸宗教の調停者-
金岡直子(大阪大学)

研究発表(午後)

第一分科会(13:15-16:05、会場:同志社大学 夢告館)

- 13:15-13:55 「絵本」出現の背景
-『絵本宝鑑』の著者橘宗重の出自の解明を通して- 市川廣太
- 13:55-14:35 岡田三郎助《水浴の前》-「理想画」における花の象徴性- 高山百合(九州大学)
- 休憩10分
- 14:45-15:25 近代日本彫刻の潮流と石井鶴三《島崎藤村先生像》
-星取り法と直彫りの対比を通して- 福江良純(京都府立京都八幡高等学校)
- 15:25-16:05 松本竣介の「立てる像」(1942)および戦時期諸作品における象徴
長田謙一(首都大学東京)

第二分科会(13:15-15:15、会場:同志社大学 夢告館)

- 13:15-13:55 J.M.W.ターナー作《麦を運ぶ女性のいるリッチモンド・ヒル》の主題について
出羽尚(武蔵大学)
- 13:55-14:35 ジェームズ・マクニール・ホイッスラー作《アトリエのホイッスラー》にみられる
《ラス・メニーナス》の影響とその意義 佐藤菜々子(吉野石膏美術振興財団)
- 14:35-15:15 エドワード・ホッパー作《線路脇の家》-「アメリカ的」特質と母の投影-
山田隆行(早稲田大学)